

《ちょっと一言》(2025年12月30日)

論争の槌が問う、台湾海峡と日本の安全

王直美

中国は、12月30日に台湾周辺において実弾射撃を含む軍事演習を実施し、台湾のみならず周辺地域の安全保障環境に深刻な影響を及ぼす動きを示した。

この一連の行動は、単なる軍事訓練ではなく、政治的意思表示としての性格を強く帯びている。台湾では外部からの軍事的圧力の中で、封鎖を「鎖」に喩える言説も見られるが、中国が台湾を縛り付けようとすればするほど、その内に抱える不安と焦燥はかえって露わになるといえよう。論争の槌は、こうした中国の権威主義的手法そのものに対する省察を打ち鳴らしている。

台湾海峡の緊張は決して台湾の問題だけではなく、日本の安全保障環境とも直結している。力が理性に取って代わり、沈黙が生き延びるための条件とされるとき、正義は果たしてなお正義であり得るのであるだろうか。この問いに直面する中で、台湾の成熟した民主社会は、中国の脅しによって歩みを止めることはない。むしろ、今や何が真の安全であるのかを、冷静かつ主体的に見極めていく姿勢こそが求められている。

真に平和をもたらすのは、軍事的威嚇や恐怖の拡散ではない。揺るぎない価値観を共有する強固なパートナーシップと、理性に裏打ちされた協力関係こそが、台湾海峡のみならず、日本を含む地域全体の安定と持続的な平和を支える基盤となるのである。



(筆者作成)



(筆者作成)